

山縣医院だより

YAMAGATA CLINIC 2011 新春 No. 21

開院20周年記念

第16回
ぶんぶん歩こう会



MENU

- ♪ 山縣医院 新年のご挨拶
～ 開院20周年を迎えて ～
- ♪ 山縣医院 通所 NEW 徒然日記 (1)
- ♪ 山縣医院 開院20周年記念行事
- ♪ 山縣医院 ～ 診療のご案内 ～



整形外科は骨と関節の専門医です

新年のご挨拶

～ 開院 20 周年を迎えて ～

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

さて今年には本院をこの地に開業し 20 年という節目となる年です。過ぎ去ればあっという間のように感じますが、開業当初保育園児だった長男も今年 25 歳になっている現実が、なるほど、20 年なんだと思わせます。

内科医であった祖父の修が、当地を離れ下岡村（現・お茶屋町）に山縣内科医院を開業したのが大正 7 年です。その後、父、時房が昭和 37 年に整形外科医として祖父の後を引き継ぎました。そして亡くなる昭和 59 年まで、優秀な整形外科医としてがむしゃらに働き、若くして他界してしまいました。昭和 59 年は、父と入れ替わるように私が医師になり、同門の整形外科（河合伸也前教授）に入局した年でした。早く開業し父の後を引き継がせてほしいというわがままを教授は聞き入れてくださり、平成 4 年 1 月 13 日にこの新前町の地に戻り、ブランクがありましたが山縣医院を開業しました。

開業 20 年目を迎え、若く未熟者であった院長を支えてくれたスタッフの皆さんに感謝です。また今日までやってこれたのも、同門や医師会の先生方、父、祖父をはじめ家族のおかげと感謝しています。患者の皆さんには治療を受ける側の立場からの気持ちを自然に、時に厳しく教えてもらい日々勉強になっています。

20 年は節目ではありますが、通過点です。向上心を持ち新生山縣医院として成熟した医療を提供していきたいと考えています。

ところで、近年少子高齢化が大きな社会問題になっています。この超高齢化社会に対しての整形外科医の役割はなんでしょうか？骨折などにより運動機能が低下し寝たきりになる人が増加すると思われまます。これらの病態を原疾患を含めて、ロコモティブシンドロームと呼びますが、健康寿命を延ばしロコモの診断、治療から予防まで考え、人生の質を高める医療サポートが整形外科医の役割です。本院でも医療のほか通所リハ、通所介護、また「歩こう会」など運動機能維持、向上に積極的に関わってきましたが、これからもさらに充実させていきたいと考えています。

一方少子化した子供たちに対しても整形外科医には重要な役割があります。子供の体力の低下が指摘されていますが、学力だけではなく運動能力も二極化しています。つまり「やりすぎ」による肘、膝などの関節障害が多発したり、一方では少し運動しただけであちこちが痛くなって運動が嫌いになり、運動しなくなるために更に運動能力が低下する子供たちが増えています。子供達に一律同じ運動強度を与えることはかえってマイナスとなることもあり個々のレベルに応じたきめ細やかな運動強度設定が重要なのです。これができるのが整形外科です。発生した障害を診断、治療するだけではなく、学校現場に赴き、教育講演のほか、現場の声を聞くなどコミュニケーションをしっかりとるなど、学校保健にかかわる体制もできつつあります。

運動器検診などを通じ障害の早期発見、治療のみならず予防を考えた子供の運動器の機能を、健康を守るための整形外科医の活動を JCOA（日本臨床整形外科学会）の委員として行っています。

父とほぼ同じ年齢で開業し、亡くなった歳に近づいた現在ですが、気持ちを新たにし、全年齢層の運動器の機能を中心にトータルの健康維持、増強のために診療を続けていきたいと考えています。

これからもよろしくお願い申し上げます。

院長 山縣 茂樹



（シンボルマーク）

暑さ、寒さ、風の日にも
常に寄り添えることができますように。

なんぷうかい
（南風会）

暑い夏の日に南から吹く
こちよい風となれますように。



通所 NEW 徒然日記(1)

「温故知新」の旅をする私たち

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。
2000年に通所リハビリテーション開設し、通所リハビリ徒然日記を書いてきましたが、2010年に通所介護南風開設となり、この徒然日記も一新することにしました。

はじめのころは、何をどうするかに戸惑いながら日々を過ごしてきました。あれからもう少しで11年が過ぎようとしています。



1年目、芸術の秋で作った作品の展示をはじめ、4年目、皆さんを喜ばせたいと考えスタッフのクリスマスプレゼントづくりを始め、7年目、風船を使ってのちょうちん作りと絵の具を使ってカラー書初めを始めました。



8年目には、利用者が増えたこともあり3階から広い2階に移ってきました。スタッフの人数も増えました。10年目職員駐車場の一部に畑が完成、トムロコシとスイカ、枝豆、トマト、サツマイモを植える、そして念願のPT（理学療法士）がスタッフに加わります。11年目3階に通



所介護南風開設、そして新しい看護スタッフが加わりました。更に初めてささやかではありますが、クリスマス演奏をしました。



通所リハビリテーションは、お花見、七夕、作品づくり、クリスマス&忘年会、ちょうちん作りなどを通して利用者の方々に生活の中にリハビリを感じてもらいながら過ごしてもらっています。通所介護南風は、まだ開設




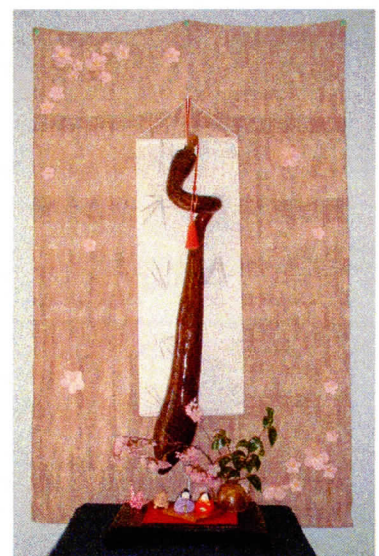
したばかりですが、あたたかい南風のように“癒し”や“和み”をテーマに過

ごしてもらおうと思っています。
日々の活動の中で、古いことを知ることは、新しいことを知るということがよく分かります。スタッフは、全員戦争体験がありません（当然といえば当然ですが）。巨人・大鵬・卵焼きがわからない、生まれたときから家に電話があり、カラー

テレビがある、学校でパソコンを勉強する時間があったスタッフもいます。この生活環境の違いを埋めるものは、お互いに話し合い知り合うことだと思っています。お年寄りの話は同じことを繰り返すといわれますが、聞いて欲しいのは話ではなくその中に伝えたいメッセージがあるのだと思います。たとえば、子供を育てるのに苦労した、食べるものがなかった、田植えはしんどかった、姑にいじめられたなど沢山話してくださいませ。そのことは、きっとこれから生きて行く私たちに心に留めておいて欲しいことなのだと思います。子供は楽には大きくなってくれない、食べることは大切なこと、農業の大変さ、新しく家族になることの難しさそれらにぶつかった時に自分たちの話が少しでも支えになれば、役に立てばと思っているのだと願っているのだと思います。



私たちは、そう想像しながら、新しい発見のために今日も利用者の皆さんと一緒に昔話と最近の話を交えながら「温故知新」の旅をしています。 

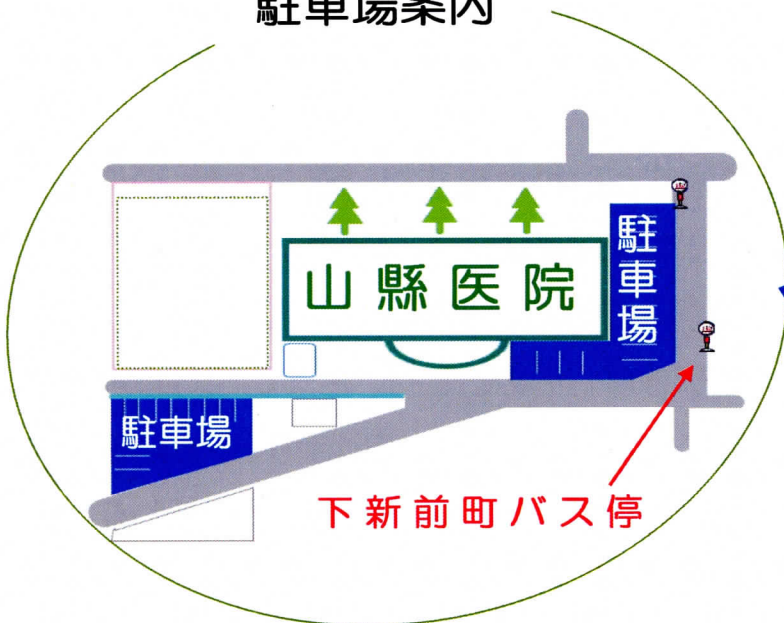


山縣医院 開院20周年記念 ピアノ演奏会



2011年2月10日(木)午後3:30開演
山縣医院リハビリルーム

駐車場案内



アクセス



診療	月	火	水	木	金	土
午前 午前9時00分 ~ 12時30分	○	○	○	○	○	○
午後 午後2時30分 ~ 6時30分	○	○	○	休	○	※ 2時00分 ~ 4時30分

休診 日曜、祝祭日、木曜日午後

※ 土曜日午後は 2時00分 ~ 4時30分



医療法人 社団 南風会
山縣医院

〒747-0834 防府市田島1092
TEL 0835-22-0246

整形外科 神経内科
リハビリテーション科

通所リハビリテーション (デイケア)

通所介護 南風 (デイサービス)

MRI 設置